

「ダイコンドラエリア ～雨水管理のための植栽＝グリーンインフラ～」

エリア担当：小川瑛介（都市緑化研究会副会長）

作業協力：飯島健太郎教授 都市緑化研究会



（写真：不動尊口側に立ってダイコンドラエリアを撮影。2017年5月12日の様子）

1、ダイコンドラエリアの機能

このエリアには、雨水を土壤に浸透させる為の工夫が施されています。地面を覆っている緑色の植物は、ダイコンドラ・レペンス（標準和名：アオイゴケ）と呼ばれるヒルガオ科の多年草です。

例えば、この植物の茎や葉は、雨粒が土壤に直接衝突するのを防ぎ、雨水を保水・浸透させるのに優れた団粒構造の土壤を守ります。

2、廃材の活用

このエリアの横（＝写真右手）を通る散策路は、このエリアよりも低い位置にあるので、エリアと散策路の境界線には「土留め」が施されています。この「土留め」には、早湊川・老馬谷ガーデンの造成工事の際に回収されたコンクリート片を活用しました。また、このエリアの正面部分（＝写真手前）と散策路を分ける「縁取り」にも、この土地に埋まっていた大小の石が使われています。

このエリアの壁際（＝写真左手）は帯状のコンクリートの地面でした。しかし、この部分も今は、土壤があり、ダイコンドラ・レペンスが生育しています。元々コンクリートの地面を緑化する事が出来た訳は、（下部から順に）乾燥させたクズの根・粘土の塊・土壤の三層構造にあります。クズの根と粘土の塊も地面の下から出て来た物です。これらの廃材活用の試みは、仲間のアイデアと実践を引き継いだものです。

3、生育しているダイコンドラについて

現在、地面を覆っているダイコンドラ・レペンスの大部分は、私が2017年4月10日に播種（種まき）したものです。4月10日以降、ダイコンドラ・レペンスの発芽・初期生長の過程においては、土壤が乾燥しない様に週3日程の水やりを続けてきました。また、少数ではありますが、2016年秋に飯島先生宅の庭から移植されたダイコンドラ・レペンスも生育しています。こちらは寒い冬を無事に乗り越え、この春、さらに茎を伸ばしています。